

英語運用能力を育成する取組について

TOEFL (iBT及びComplete Practice Test) に係る評価

資料4

学校	独自取組		外部検定試験				評価	
	主な取組	取組概要	英語検定合格者(受験者)	TOEIC受験者 (最高スコア、平均スコア) (受験者) 公開: 990点満点 Bridge: 180点満点	TOEFL受験者 (最高スコア、平均スコア) iBT: 120点満点 iTP Level 1: 677点満点 iTP Level 2: 500点満点 Junior: 900点満点 TOEFL iBT Complete Practice Test	その他	TOEFL 合計人数 (iBT ITP, Junior, Complete Practice Test)  (iBT, Complete Practice Test, 上位30名平均)	評価
北野	①「授業を変える」取組の充実 ②「使える英語プロジェクト事業」への積極的参加 ③「学内留学講座」の実施	①1・2年生の授業で電子黒板を活用したり、オラルの授業の一部でALTと独自教材の活用により授業をすべて英語で実施するなど、「授業を変える」取組が充実している。 ②TOEFL iBTチャレンジ支援事業など、英語運用能力向上の機会をフルに活用した。 ③民間教育機関を活用した「学内留学講座」を4回実施し、52名の生徒が海外大学の一般教養の授業体験を行った。	-	公開12名 (最高945、平均594.4)	iBT Complete Practice Test 34名 (最高75 平均43.2) PBT 1名 (487)	●GTEC CBT 1名 (893)	34名 (上位平均 45.9)	A
豊中	①英語リスニング講座 ②TOEFLコース ③英国語学研修 ④フィリピン語学研修 ⑤大阪大学留学生との交流 ⑥異文化交流会 ⑦台東女子高専との国際科学シンポジウム ⑧SSH事業における英語プレゼンテーション講座	①センター試験のリスニング対策を土曜日、長期休業中に、予備校のDVD講義を利用して行った。 ②TOEFL iBTテスト対策のテキストを使用し、毎週放課後および土曜日の午前中(必要に応じて)、英語4技能の指導を行った。 また、外部講師によるTOEFL iBTテスト対策の短期集中講座を夏期休業中に行った。 ③13日間、イギリスの語学学校の主催するインターナショナルプログラムに参加させた。 ④2週間、フィリピン(セブ島)の語学研修施設にて、フィリピン人講師による1日6~8時間程度のマンツーマン授業やグループ授業を受講した。 ⑤大阪大学留学生40名を招き、本校文理学科1年生4名と留学生1名でグループを作り、英語でディスカッションした。内容は、2年次のSSH・SGH課題研究につながるテーマを10設定し、それぞれのテーマについての調べ学習を英語でプレゼンテーションし、留学生がそれに応えるというもの。 ⑥豊中市に居住する在日外国人9名を招き、2年生全クラスで、日本で生活するようになったいきさつ、日本の生活を通じて日頃感じていること、自国の生活と異なる点、さらには高校生に伝えたい自国の文化について交流した。 ⑦4月に台東女子高専を初め台湾の高校3校94名の高校生を迎え、2年生SSH代表生徒の課題研究発表等の相互プレゼンテーション及びディスカッション、2年生全員との異文化交流会を実施した。3月には本校SSH代表生徒12名が台東女子高専を初め相互プレゼンテーション及びディスカッションを行った。 ⑧東京から年2回講師を招き、アイコンタクトや声の強弱、間の取り方、原稿の使い方に至るまで細かい指導を通して、プレゼンテーション能力を磨き、さらにそれを英語で行うことでコミュニケーションスキルの向上を図った。	準1級1名 2級12名 準2級9名 (24名)	公開2名 (最高675、平均635)	iBT Complete Practice Test 30名 (最高54 平均37.5)	-	30人 (上位平均 37.5)	B
茨木	①TOEFL iBT Complete Practice Test 実施 ②ディベートを取り入れた英語授業 ③海外修学旅行の取り組み ④大阪大学等留学生との交流 ⑤海外(主にアジア)の高校生との交流 ⑥「イマージョンプログラム」の実施 ⑦長期留学生の受け入れ ⑧「使える英語プロジェクト」への参加	①事前の取り組みとして2年英語表現でBARRON'Sを利用して授業を行った。 ②保健の授業でのディベートの経験を生かして、2年「英語表現」授業にて、「日本の原発の廃止」「憲法第9条の改正」等のテーマでディベートを実施。論理的・批判的思考力を鍛える。 ③バトナムレホフオン高校訪問、文化及び、スポーツ交流を実施し、そのうち40名が「原発について」「世界遺産について」のテーマでディスカッションを実施。120名が英語を話せる家庭に、ホームステイまたはホームビジットを行う。 ④大阪大学留学生65名を招き、本校1年4~5年の生徒に留学生1人という小グループでのディスカッションを行う。 また、別の日に世界の屋台体験として、来年の修学旅行先のマレーシアの料理を調理、食食、文化交流を行う。 ⑤台湾明道女子高専より38名、ベトナム、レイクビンドン高校より30名来校。スタディーツアー・文化交流・ディスカッション等を実施。 ⑥1年生は、冬休み2日間、ネイティブ講師による少人数英語漬けプログラム。103名参加し、修学旅行のテーマを掘り下げ、日本を発信する鍛錬を行う。2年生は、冬休み2日、春休み2日の4日間。39名参加、冬休みはディベートに、春休みはTOEFLの演習に重点を置いたプログラムを実施。 ⑦4月~2月中旬まで約一年間、ドイツからの留学生を受け入れ、修学旅行にも一緒に参加した。 ⑧「使える英語プロジェクト」Advanced Class に5名参加。	準1級1名 2級14名 準2級11名 (29名)	公開6名 (最高865、平均648.3)	iBT Complete Practice Test 42名 (最高91 平均43.6) Junior 1 (786)	-	43名 (上位平均 48.0)	A
大手前	①チャレンジTOEFL iBT ② English Camp ③シンガポール語学研修 ④マレーシア海外研修 ⑤英国交流 ⑥ケンブリッジ海外研修	①12月に2日間、1月に2日間、3月に2日間、TOEFL iBTスコア向上をめざした集中講義。40名参加。 ②3月上旬に3日間、大学院生と防災をテーマに講義を発表。40名参加。 ③現地調査・街頭インタビュー等を行い、ネイティブ指導者から英語プレゼン発表スキルを学ぶ。72名参加。報告発表会を英語で行う。 ④研修施設で英語での講演・説明・講義を受ける等、多民族国家における英語によるコミュニケーション法を体感する。75名参加。 ⑤英国ウェールズ・ペングラス校との交流。12名の生徒・教員が来校し、文化交流を深めた。12日間実施。 ⑥ケンブリッジ大学で同大学教授から4日間にわたり高等教育について講義を受ける。帰国後、英語での報告発表あり。10名参加。	1級1名 2級10名 準2級3名 (14名)	-	iBT Complete Practice Test 39名 (最高82 平均35)	-	39名 (上位平均 40.0)	A
四條畷	①英語コミュニケーション集中講座 ②TOEFL iBT講座(長期、短期) ③国際交流キャンプ ④英語聴聞大会 ⑤英語コミュニケーション集中講座 ⑥如月杯 ⑦オーストラリア研修	①1年学習合宿の際に外部機関にネイティブ講師の派遣を依頼し、自己紹介から意見の表明まで実習する。 ②1,2年希望者対象で外部講師を招き講義を受け、実施前と後に英語力を計る。 ③1,2年を対象にレクチャーセッションを交えながら大学の留学生とともに英語を使うことを主眼にした取り組みを行う。 ④1年生8名が四條畷市で行われる聴聞大会に出場した。⑤オーストラリア研修に行く生徒対象に現時点での生活に必要な英語を学ぶグループと、コミュニケーション能力を高めるグループに分けて講習を行う。 ⑥1年生対象に一定の長さの英文を聴聞する。クラス代表を決定し、最終審査を行う。 ⑦オーストラリアの高校生宅でホームステイし、履はレギュラーの授業に入る。	2級3名 準2級2名 (5名)	-	iBT Complete Practice Test 16名 (最高70 平均36.9)	-	16名	C
高津	①「英語コミュニケーション集中講座」の実施 ②英語外部検定試験の受験 ③SSH事業における英語での発表実施	①夏季休業期間中の「英語コミュニケーション講座(KITEC)」では、全生徒を4~8人の少人数グループに分け、1年生は日常の単語・フレーズ運用レベル、2年生は簡単な英語によるスピーチ・ディスカッションレベルと、到達目標を定めて実施した。 ②英国語学研修や、TOEFL 特別講座(1月実施)、国内英語研修など、英語運用能力の向上を図るとともに、TOEFLに対応できる英語力をつける取り組みを行った。 ③外部検定試験については、1・2年生全員がGTECを受験したことに加え、多数の生徒が実用英語技能検定を受験した際に良好な成績を修めることができたため、英語に対する学習意欲をさらに高めることができた。 ④SSH重点事業において、日韓の河川の生態系調査の結果について、韓国と日本において英語でディスカッションさせたとともに、英語で研究発表をさせた。	準1級2名 2級204名 準2級248名 (822名)	-	iBT Complete Practice Test 65名 (最高77 平均35.6)	●GTEC for STUDENTS 696 (最高778、平均536.6)	65名 (上位平均 46.7)	A
天王寺	①1年生文理学科英語表現授業内TOEFL Lesson ②1年生普通科・2年生普通科・文理学科土曜日TOEFL Lesson ③イングリッシュキャンプ ④海外研修4ヶ所 ⑤MOOCsを利用した海外の大学講座受講 ⑥英語教育推進事業Advanced Class ⑦ケンブリッジ大教授による英語個人レッスン ⑧韓国慶南女子高校との英語による課題研究発表交流 ⑨ハーバード大学生8名他1名による本校でのホームステイプログラム ⑩1年生全員がEUSシンポジウムで英語による講演受講 ⑪ラグビー部がラグビー発祥の地イギリスに海外遠征	①後期からの英語表現の授業内で15分から25分を使って23回TOEFL iBT (使用教科書 Building Skills for the TOEFL iBT)の授業を実施 ②6月14日から1月13日までの期間に土曜日に18回TOEFL iBT (使用教科書 Basic Skills for the TOEFL iBT)の講義を実施 47名参加 ③大阪大学留学生(延べ39名)による英語によるさまざまな企画。本校生55名参加。 ④ケンブリッジ大学(8名)ハーバード大学(11名)カリフォルニア大学(30名)、オーストラリアホランドパーク高校(5名) ⑤CourseraのUC_Sandiegoが開講する講座「Learning how to learn」を生徒20名が12月~3月にかけて22時間受講した。 ⑥ネイティブ講師によるコミュニケーション力向上を図る講習 前期3名 後期7名 参加 ⑦イギリス現地からSkypeを利用して一人当たり週20分のレッスンを30回実施していただいた。9名が受講した。 ⑧韓国慶南女子高校から17名(生徒11名教員6名)の訪問を受け、本校から50名の生徒が参加し、相手校から3本、本校から2本の英語による課題研究発表交流会を行った。 ⑨ハーバード大学生8名チューター1名の9名を本校生徒宅にホームステイで受け入れ、この9名の大学での研究内容のプレゼンを46名の本校生徒が聴講した。 ⑩南港の国際会議場にて1年生全員360名が駐日EU代表部の方から英語による講演2本を聞いた。(同時通訳付き・日本語の講演1本も英訳あり) ⑪ラグビー部生徒27名が渡英し、ケンブリッジ大学学生との練習、地元クラブチームとの交流試合等を実施した。	2級8名 準2級1名 (13名)	公開4 (最高755、平均610) IP4名 (最高585、平均298.8)	Junior 1名 (740) iBT Complete Practice Test 82名 (最高83平均42.3)	-	83名 (上位平均 60.0)	AA
生野	①イングリッシュキャンプ ②オーストラリア語学研修 ③TOEFL iBTチャレンジ講座 ④英語検定全員受験	①1年生全員を対象に、7月第1週に集中講義形式で、生徒10名につきネイティブ教員がつき、英語によるディベートやキャリアプランプレゼンテーションを行った。 ②慶州フリスベンで一人ずつホームステイを行い、FCAC (フーリー・コトワグ・リカガッ)での英会話レッスン、現地校生徒との交流、エクスカーションによる異文化理解を実施。 ③7月に実施したイングリッシュキャンプ(1年生全員対象)及び8月上旬の海外語学研修(1・2年生)の参加者を中心に、1・2年生を対象にしたTOEFL iBTチャレンジ講座を開講し、英語力のさらなる向上と英語力を活用したコミュニケーション能力の向上並びに異文化理解・多文化共生等を図った。 ④1年には準2級、2年には2級に英語検定を全員に受験させた。	2級157名 準2級222名 (613名)	-	iBT Complete Practice Test 84名 (最高43 平均20.7)	-	84名 (上位平均 31.9)	B
三国丘	①SGH事業の実施 ②TOEFL講座の実施 ③英語の授業でTOEFL ITPの学習、受験 ④海外研修の実施、TOEFLチャレンジの受験	①文部科学省指定によるSGH事業を実施。1年生40名対象に毎週メリルハースト大学の派遣授業としてネイティブによる環境や経済に関するオールイングリッシュの授業を実施。さらにアメリカのメリルハースト大学にて26名が講義を受講し、英語で課題研究発表を行った。 ②年10回(1回90分)の講座を実施し、12月には東京合宿(2泊3日)を実施 ③英語の授業の中でTOEFL ITPの学習を行い、文理学科の生徒が受験 ④海外研修を実施(1・2年生希望者30名 オーストラリアスタディーツアー・カンダバリー・カレッジでの授業受講し、クイーンズランド大学生と交流、野球部20名台湾の職業高校を訪問。スポーツ・授業交流)海外研修を受けた生徒40名が研修前と研修後にTOEFLチャレンジを受験し、研修による英語力向上を測定した	準1級4名 2級9名 準2級17名 (30名)	-	Junior 17名 (最高770 平均71628) iBT Complete Practice Test 84名 (最高67 平均24.2) ITP (Level 1) 156名 (最高577 平均445.6)	-	257名 (上位平均 40.2)	A
岸和田	①TOEFL iBTを3回受験および専門講師による受験対策講習(3日間) ②オーストラリア語学研修 ③グローバルリーダー研修(英語でのディスカッション能力とプレゼンテーション能力の育成) 3日間	①研修実施前に1回目、研修実施後2回目、講習実施後3回目と受験してスコアの変動を確認した。 ②オーストラリア語学研修参加者全員には①の参加を義務づけた。 ③留学生6名(生徒宅にホームステイ)を招聘し5名程度の小グループで、6H×3日間の英語でのディスカッションとプレゼンテーションを実施。最終日には参加者39名全員が英語でプレゼンテーションを行った。保護者も公開。	2級19名 準2級29名 (67名)	-	iBT Complete Practice Test 36名 (最高58 平均27)	-	36名 (上位平均 27.6)	B